

金山町 議会だより

第184号

平成26年2月5日

発行 金山町議会

編集 議会だより編集特別委員会

〒968-0011

福島県大沼郡金山町大字川口字谷地393

☎ 0241-54-5341



1月19日に横田公民館で行われた新春囲碁将棋大会

〔12月定例会のあらまし 会期／12月20日～26日〕

	(ページ)
12月定例会、条例の制定・改正、補正予算	2～3
請願・陳情、臨時議会	4
議会報告会、議会の動き	5
一般質問に4人登壇	6～9

子育て環境の充実目指し 金山町少子化対策 推進条例制定

12月議会 定例会



2月から入居が始まる中川町営住宅（手前）とかねやまホーム職員寮

12月定例会は、12月20日から26日までの3日間の会期で開かれました。金山町少子化対策推進条例や中川町営住宅の設置及び管理に関する条例の制定、一般会計補正予算など15議案が提出され、原案のとおり可決されました。一般質問には4議員が登壇し町政をただしました。

意気込みを条例に 金山町少子化対策推進条例

9月定例会において、長谷川町長から「少子化非常事態宣言」がなされ、その第一歩として「金山町少子化対策推進条例の制定について」が提案され、全員賛成で可決しました。

少子化が進展する現状の中で、指針となる条例を定め、今後とも町が、少子化対策に継続的、重点的に取り組んでいくという姿勢を条例により示

中川町営住宅の 設置及び管理を条例に

中川地区に建設されている木造2階建て、6世帯が入居できる町営住宅について、位置や目的、それに公募方法や入居基準、利用料等を定めた条例で、賛成多数で可決しました。

問 近所に対し迷惑な行為があった者、あるいは、ペットの問題についても文言を加えるべきではないか。

したものですよ。

問 毎年、施策の実施状況を公表することを条文に盛り込んでほしい。

答 この条例は、ともかく始めてみようというのが基本的な考え方です。今後推進していくうえで、皆様のご意見を聞きながら必要事項は改正していきたいと考えています。

問 推進体制の整備についての考えは。

答 企画担当部署におい

問 入居者の選考についても考慮するとともに、入居時に案内等を作成し説明していく考えです。

問 若者定住の観点から、入居時に家賃の3カ月分を敷金として納めることについて、緩和する必要があるのでないか。

答 若者定住のための施策として、使用料や敷金に対して補助金を交付するという方向で検討していきたいと思っています。

てとりまとめを行い推進するというのが、現段階での考え方です。

問 「町民が協力するよう努めなければならない」という部分が、条例で決めるべきことなのか、考え方を伺う。

答 町民の責務に関する規定について、町民に協力を求めるような内容になっていきます。

この条例を定めたことを町民の皆さんにお知らせしながら、町民一体となつて取り組みたいという意思表示として定めたと考えています。

集会所指定管理者を 行政区長に限定

町で設置している18の集会所について、指定管理者を地区の区長さんに定めるよう改正する条例で、全員賛成で可決しました。

平成18年度から、公募という形で指定管理者を定めていましたが、現実的に集会所を管理いただく者として、行政区長以外に適当な管理者はいないためです。

一般会計補正予算

3124万円を増額

酒米に差額補助

問 30万円補助に至る経過と補助金の交付先は。

答 酒米の作付けは、今の制度では転作の作物に該当せず、広域調整金からの補てんもできません。町内の酒米と水で仕込んだ「てまえ酒」も好評であり、酒米栽培の振興を図っていくものです。この補助金は、JA会津みどりの水稻部会へ交付し、最終的には酒米生産者へ配分されます。

問 酒米生産者の人数と、今年生産された酒米の俵数、主食用米との販売価格の差額は。

答 金山町の水稻部会の

会員は18名で、うち4名が酒米を栽培しています。袋数(30kg)と差額については、チヨニシキが349袋で550円。夢の香が186袋で250円。フクノハナが82袋で800円となっています。

問 稲作に関係するJA会津みどりからの支援は。また、酒米増産等に向けた振興策は。

答 JAでは事務を担当し、補助金は町のみ支出です。来年度、友好都市に呼びかけ、酒米の作付けから仕込みまで体験できるツアーを計画します。水稻部会にも作付面積の拡大や、補助金に依存しない指導を行っていく考えです。



酒米の育成状況を調査する生産者



整備が進められている田沢橋付近

町道滝沢・田沢線整備事業費を増額

問 道路改良費の工事請負費1528万円の内容について伺う。

答 流失した旧田沢橋の撤去、町道滝沢・田沢線の防雪柵設置、盛土撤去等をひとつの事業として計画してきました。しか

し、旧田沢橋撤去の工事費が、水中作業の安全性確保等のために増額となり、他の事業が実施できない状況となったものについて伺う。

今回の補正は、残りの事業を実施するためのもので、積雪等の状況から来年度への繰り越しとなる予定です。

国保会計補正予算

基金残高5800万円に

4人に1人は未受診

問 特定検診で102万円の減額、対象者の4人に1人は受診していないことになる。40歳から74歳までの重要な年代の受診の現状についてどう認

識しているか。

答 23年度受診率は60%、24年度が64%、25年度が68%で受診率は伸びている状況です。さらに受診率を上げるために、受診のお知らせ、訪問活動、相談会等により周知

断線多い光ケーブル

問 光ケーブル工事の378万円の内容と、破損が多い原因は。

答 中川町営住宅や電柱移設等による支障移転、雪害修繕、新規加入工事関係です。雪害等で年に10件ほどの断線があり、ますが、工事については切れにくいような張り替えを行っています。

なぜ全額を減額

問 鳥獣被害防止対策協議会負担金200万円が、全額減額となった経過と理由は。

答 当初300万円の負

を行い健康管理に努めていただくよう取り組む考えです。

基金管理の見通しは

問 国保基金の残高が5800万円と、毎年目減りしている。今後の見通しについて伺う。

答 24年度末で8500万円、近年は人間ドッ

担金で計上しました。200万円の県交付金を受け、町からの100万円を加え負担する予定でした。その後、県からの交付金が町を経由せずに直接協議会へ交付されることとなったため、今回減額するものです。

住宅使用料の内容は

問 歳入で、町営住宅使用料10万円が計上されているが、内容を伺う。

答 2月から入居できる新しい中川の町営住宅使用料、6世帯2カ月分として19万2000円と、空室となっている町営住宅の減額です。

ク経費を基金から対応してきました。今年度は、国保税の大幅アップを抑えるため基金を取り崩す手法をとり、今後同じ対応が必要と思っています。

平成29年度には、国保事業の都道府県単位化が予定され、基金の活用を図りながら対応していきます。

請願・陳情を採択

請願

◇雇用の安定を求める意見書提出の請願（日本労働組合総連合会福島県連合会両沼地区連合会）

雇用の安定を図るために、「雇用の金銭解決制度」の導入、「労働者派遣法」の大幅な緩和など、労働規制の緩和を行わないことなどを求める意見書を国の関係機関に提出しました。

陳情

◇「2014年度教育予算の充実と教職員定数の改善を求める意見書提出」方の陳情書（福島県教職員組合両沼支部）

自治体の裁量権を保障した教育の充実に求めらるる中、地方財政を圧迫し、人材確保に支障が生じることがないように、人材確保法を堅持するとともに、教職員定数の改善を含む教育予算の充実を求める内容の意見書を国の関係機関に提出しました。

議員提出議案で意見書提出

◇東京電力福島第一原子力発電所における汚染水問題の早期解決を求める意見書の提出について全員一致で可決しました。

東京電力福島第一原子力発電所の汚染水問題は、有効な対策が講じられないまま、悪化の一途をたどっており、もはや東京電力だけで対応できる問題でない。県民生活や県内産業だけでなく、国際的にも大きな影響を及ぼしている汚染水問題について、国が財政措置を講じるなど前面に立ち、責任をもって早急に万全な対策を実施することを要望する意見書を国の関係機関に送付しました。



橋桁だけが残るJR只見線（上横田）

11月22日 第10回臨時会

平成25年第10回臨時会は11月22日に開催され、流した旧田沢橋の撤去工事変更契約や補正予算など4議案が提出され、全議案可決されました。

旧田沢橋撤去工事 2423万円増額

旧田沢橋の解体撤去工事変更契約は、潜水土の水中での安全性を確保するため、河川内に杭を打ちパネル設置で水流を抑える工法で、2423万

円を増額するものです。川口高校寮建設規模拡大で1億円増

一般会計補正予算では、

川口高校学生寮建設について、債務負担行為を当初の2億円から3億円への増額するものです。川口高校からの意見も取り入れ、建坪の増加に伴う2階建てから3階建てへの変更。ベッドや机、厨房の備品等を一体的に整備するためです。債務負担

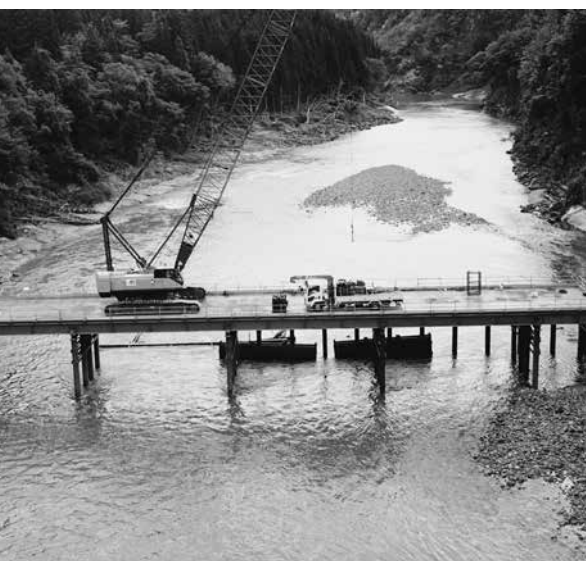
10月24日 第9回臨時会

議員提出議案で

JR只見線復旧要望意見書提出を可決

平成25年第9回臨時会は10月24日に開催され、議員報酬削減に伴う補正予算が提案され可決されました。また、議員提出議案として、JR只見線の早期全線復旧を求める意見書の提出を全員一致で可決しています。

行為とは、将来にわたり分割して支出していく仕組みで、今回は5年間で、終了後に町の所有となります。また、県の緊急雇用創



旧田沢橋の撤去工事

議会報告会

金山町議会では、定例議会終了後に議会報告会を町内2地区で開催しています。今回は、9月定例会後に開催した沼沢地区と滝沢地区参加者の声を紹介します。

素早い対応に感謝

川辺次郎さん（沼沢）

議長はじめ全議員方への来訪に感謝しつつ、住民からの話題が何億円の決算やら補正より、地元から町長や役場への要望・陳情のようになるのはやむを得ないと思います。今回の会合で、議員諸氏に町行政のトップ同様各地域の実情を知っていた

だくことは、支え合いの町づくりに向けて「職員地区

担当制」とともに有意義なものと感じました。

沼沢湖山荘の跡地活用など話題となりましたが、「少子化非常事態宣言」の中でもさらに厳しい地区の声が伝えられたら幸いです。

また、県道の「浮き水」問題では、素早く土木事務所と協議し今後の対策に向けてご報告いただき、区長として部落員に報告できました。ありがとうございました。



10月11日、沼沢・太郎布地区での報告会



10月16日、滝沢・田沢地区での報告会

身近な話ができる 実りある会

渡部典子さん（田沢）

滝沢・田沢合同の会なのに何と参加者は5名。

議員さんは皆さん勢揃いでした。町の将来・活性化の話題はただ聞いていました。参加者が少ない分、ざつくばらんな雰囲気では私はいちばん身近な心配事、在宅介護について質問しました。また、国道の田沢入口は、特に冬場は積雪で見通しが悪く危険なので広げてもらうよう意見も出され、田沢橋の架け替えに加えて更に暮らしやすくなるようお願いします。実りある会でした。

議会の動き



10月29日、町村議会議員研修会（郡山市）



10月24日、総務文教常任委員会で町内空家の状況を視察



10月24日、川口高校寮建設地を全議員で視察



10月24日、産業建設常任委員会で災害復旧の状況を視察



新潟・福島豪雨災害時には生命線となった
県道布沢・横田線（松坂峠）

奥高伸議員の 一般質問



『万全なのか、自然災害への備えと対応』

地区の話し合いから安全意識高揚を―総務課長

問 毎年全国において多くの自然災害が発生している。我が町でも一昨年には新潟・福島豪雨災害が発生し未曾有と言われる大きな災害が発生した。我が町は地形的にも自然災害が発生しやすいと言われている町の対策は。土砂災害防止法に基づく区域指定の実態は。

答 町長 土石流による指定地が30カ所、急傾斜地の崩壊による指定地が16カ所あります。

問 町の防災計画、ハザードマップの策定は。

答 町長 策定には、地区ごとに災害時の避難方法等について、話し合う機会を設けることが必要であると考えます。

問 ダム災害に対応する河川、ダム管理者との協議は。

答 町長 機会を捉え堆砂除去等、安全対策を積極的に実施するよう求め、金山町洪水対策情報連絡協議会などで住民の安全・安心確保にさらに努めます。

問 自主防災力向上への町の取り組みは。

答 町長 新潟・福島豪雨災害において負傷者を出すこともなく、町の自主防災力は非常に高いと考えています。今後も必要な支援を行っていきたいと思っています。

問 地域の避難所、避難路の指定、見直しは。

答 町長 防災計画の更新に合わせ、現状に即して見直しを行い、避難路の指定も考えています。

『積極的に県道布沢・横田線整備促進要望を』

近隣町村と足並みそろえ要望活動実施―町長

問 県道布沢・横田線は、古くから金山町と只見町の交流、交通に欠く事の出来ない重要な道として利用されてきた。しかし狭隘箇所も多く通年通行への改良は進んでいない。

答 町長 町としても、一昨年の豪雨災害の発生時には住民生活、緊急車両等のただ一つの生命線、迂回路としてその重要性を再認識させられた。

問 県道布沢・横田線の整備促進は地域のライフラインの確保、観光の推進、経済、文化の振興においても町の重要な整備路線の一つだと思いが町の考えは。

答 町長 町としても、重要な路線であると認識しています。近隣町村と足並みをそろえ、福島県に対して強力な要望活動を実施して行く考えです。

問 3町村による県道改良促進期成同盟会が活動の対象としている路線の名称は。

答 建設課長 県道布沢・横田線、小林・会津宮下停車場線の改良促進要望活動を実施しています。

問 只見町の伊南川沿線には、若者社員を求める優良企業があり、通勤可能な職場確保という面でも、松坂峠のトンネル化を含め重要課題と考えるが、町長の考えを伺う。

答 町長 重要課題として取り組む考えです。



下流の工事が行われている上田ダム



黒川廣志議員の 一般質問

『本名・上田ダム水利使用許可期限更新時の要望結果は』

町への回答はなく、国へも未提出―町長

問 本名・上田ダム水利

使用許可期限更新の要望を県に提出し4カ月経過した。4項目の意見①堆砂対策②ダム操作規程の改定③情報連絡方法④河川整備の策定に対する福島県からの返答は。

答 町長 水利権使用許可期限更新については、今回、県においても特別

に町の意見を尊重すると聞いています。なお、現時点では県から国に対しての意見書提出はなされていません。

問 県に4項目の意見を提出し、町への返答と経過は。

答 復興政策課長 県からの返答等はありませんが、4項目の意見について

て特に考慮したいという申し出はありません。現在は、県から電気事業者へ要望内容について交渉を行い、意見をとりまとめ国に回答したいということ聞いています。

問 第二沼沢発電所について東北電力は「立地町と福島県に説明し、反対意見はなかった」として

26年1月再稼働する見通しを明らかにした。東北電力からいつ説明を受け、どう対応したのか。

答 町長 残念ながら、町は再稼働の是非に関する公的な権限は持つておりません。

も、運転再開には了解するわけにはいかないと考えるのがか。

答 町長 安全な整備ができなければ再稼働は許さないということではなく、今、電気事業者あるいは県、国もいろんな対応をしていますので、その推移を見ながら判断していく考えです。

『個別調査が必要、高齢者共同住宅アンケート』

詳細は改めて検討―住民課長

問 高齢者の在宅生活支援を目的としたアンケート調査結果では、高齢者共同住宅が必要と答えられた方が6割、利用したいと答えられた方が6割の回答。しかし、調査は抽象的設問も多い。詳細に亘る個別調査が必要では。

答 住民課長 今回の調査結果は、高齢者住宅の建設に向けた方向性を検討し、高齢者が利用し

討するものです。世帯独立型かアパート形式、風呂、食事といった詳細については、改めて検討し対応していく考えです。

問 復興計画でも冬期間限定共同住宅の建設について検討がされているが整合性は。

答 町長 25・26年度に需要調査等実施しながら検討し、高齢者が利用し

やすい住宅整備を図っていきたいと思います。

問 復興計画で既存の施設利用として示してある自然教育村会館も、安心して共同生活ができる施設として認識しているのか。

答 町長 その時点で一番良い方向を見出していることが必要であり、経緯を見ながら対応していく考えです。

問 9月議会で示された少子化対策8項目の町営住宅整備と、第4次復興計画の集落の整備との関連性はどうか。

答 町長 高齢者住宅は、8項目の対策案以前から必要性を認識していました。

黒川議員からは他に「只見川河川整備計画について」の質問がありました。



災害復旧が進められている本名の下タ原地区

青柳靖美議員の

一般質問



『来春作付け可能か、被災農地』

作付けできるよう復旧工事に取り組む―町長

問 豪雨によるダム災害から、2年5カ月。河川、JR鉄橋、農地、住宅などは原形に戻っていない。対策を伺う①山村振興調査会の報告書の開示と報告会はその評価と、活用対策は②農地は、来春作付け出きるか。作付けできない箇所、均平作業の進捗、その対策は③復興

交付金の支出状況と今後の事業内容は。町長の特認事項は④河川整備計画の進捗とダム災害の再発防止策は⑤恒久的堆砂処理・浚渫計画の具体的な対策⑥「特別警報」の運用が開始、町の災害対策防

では見直すべき。見解は。**答** 町長 ①最終版は前回の報告会の内容と大きな変更もなく、報告会開催の考えはありません。②来春には作付けできるよう災害復旧工事に取り組んでいます。均平作業は一部終了し、圃場状況がよい来春以降にも実施予定です。③住宅再建支援事業に

2億8500万円を支出し、県の制度設計で認められた範囲内の支援です。④平成25年度中の作成を目指し、県において策定作業中であると聞いています。⑤今後関係機関に粘り強く要望してまいります。⑥今後防災計画書等に反映しながら、適切かつ迅速な対応ができるよう努

めていきます。⑦福島県JR只見線復興推進会議が設立され、県が設置する基金に町からも拠出を行い、復旧、利活用促進に取り組むこととなります。⑧地元地区の説明会も実施し、ご理解をいただいています。土地買収予算も可決いただきました議会の了解を得たものと考えています。

『川口高校、26年度の志願状況は』

32名が川高志望―教育長

問 平成25年度の入学生は、58名となり分校化は免れた。志願状況と継続対策を伺う。現在の生徒募集状況と今後の見通し。町営学生寮の進捗は。**答** 教育長 川口高校への進路希望者は32名と把握しています。県北、県南等を含まれていません。学生寮建設は工程表に従い進んでいます。

問 「県立高等学校改革計画」見通し方針は。**答** 教育長 未だ示されていません。**問** 週末の金土日が休養で不便だ。運営改善要望を。**答** 教育長 町で建設中の寮運営と整合性を持たせ、26年度は取り組みたいと思います。**問** 中・長期的な川口高校存続対策は。「川口高校を

独立校として存続させる行動計画(案)」の見解は。**答** 教育長 桐径会をとおし就学援助、寮の運営などいろいろな施策を継続するとともに、県に対しても分校化の基準緩和を強く要望していきたいと思っています。長期的には、町の少子化対策を充実し、町内から多くの生徒が入学できるように環境整備を

行うとともに、川口高校に、魅力ある学校運営に努めていただくよう支援していく考えです。同窓会から原案が出された行動計画については、正式に町への提案がありま



昨年11月に行われた町職員の研修会



横田正敏議員の 一般質問

『町には振興計画を実施する責任が』

協力得られるよう施策に工夫—町長

問 振興計画は、町を発展させるために、町が町民と約束した、町づくりの計画である。従って、町には実施する責任があると

答 町長 振興計画は、将来の町の姿や町づくりの目標、施策の指針などを示したものです。実現のために町民の方々と関係者のご協力を得られる

よう、施策を工夫していく考えです。

問 産業の6次化の推進について伺う。

答 町長 農水産物を素材そのもので出荷するということだけではなく、金山町で生産されたものを金山町で加工、販売するシステムを確立し、なりわいを作っていくことが大切であると考えます。

問 就職先の確保について具体的にどのような取り組みられるのか伺う。

答 町長 6次化産業を

実現し、売り上げを伸ばし加工に従事する雇用の促進を図りたいと考えます。

問 6次化の分業化を積極的に進め、仕事場をつくる必要があるのでは。

答 町長 ご提案いただいたような方向で実現し

ていきたいと思っています。

問 後期高齢者率が37%を超え、介護施設に入所される前の、高齢者の方々のような支援していくのか伺う。

答 町長 在宅介護のホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイの充実が必要と考えます。施設の整備や運営強化に向けて支援を行い

ながら、希望どおりの利用ができる体制整備をすることが大切と考えます。

問 住み慣れた地域で一生を送りたいと考えている方は多い。医師の訪問診療はできないのか。

答 住民課長 現体制では往診まではできないという状況ですが、医療体制を含め検討したいと思っています。

『町職員の提案でまちづくりを』

研修等で意識改革を推進—町長

問 町民の満足度を高め、活気ある行政であり続けるためには、職員の人材育成は重要な施策である。

答 町長 自治研修セン

ター等の研修のほか独自の研修も行っています。近年は講師を招き、職員の意識改革、つまり真に住民の立場にたった行政に取り組み姿勢の涵養と、勤労意欲の向上を図るために講演を行っています。

政策提案についても、復興計画策定にあたって職員から提案を受け、計

画に反映させております。少子化対策事業についても職員から提案を求め、具体的な内容を充実させる段階で、さらに提案を促すこととしています。

問 今後とも、政策全般にわたり、職員が積極的に提案できるような環境づくりに努めていく考えです。

答 町長 地方分権が進めば、職員能力がその地域を左右すると考えています。現状を踏まえ、適切な講師を求め対応し、職員一人一人の中に秘めたものを引き出していきたいと思っています。



「只見線に想いを馳せて」

「日本一紅葉が美しいローカル線」として、多くの鉄道ファンを魅了してきたJR只見線が、奥会津地方を襲った豪雨災害により、会津川口駅と只見駅間で寸断されてから2年半が経過する。この間、一日も早い全線復旧を町当局とともに各方面に対して運動を展開してきた。しかし、これまでの只見線が極端な赤字路線であることを理由に回答は常に先送りにされてきた。国、JR側に対して地元会津地方の熱意を示す意味からも復旧に要する費用負担をするべきとの考えから全会津17市町村でそれぞれ基金の創設に合意をしたところだ。丁度、この原稿を作成中、1月11日付の福島民報に国、JR、地元自治体間での協議の場を調整中との報道があった。あるいは、これが発行される頃にはJR側から何らかの回答が得られるのかも知れない。その結果が奥会津地方に光が差し込まれるものであることを願うばかりだ。

只見線は地域住民の貴重な生活路線として地域の歴史と文化とともに歩み続けてきた。しかし、只見川沿いに点在にする集落は全国でも屈指の少子高齢化が進む地域でもあり、JR側が主張するような経済効果ばかりを優先されるなら明らかに存続が難しいことは自明の理である。しかし、人はどこに住んでいようが誰であろうが等しく国民としての権利を有している。

もし、首尾よく復旧に向けて動き出すようなら沿線自治体として将来の只見線を全国に誇りを持ってPR出来るような新感覚のローカル線を主張すべきである。例えば、会津若松〜小出〜北陸新幹線飯山を結ぶ、真に日本一のローカル線を急行列車など走らせて多くの観光客を奥会津に呼び込む作戦を模索することが金山町の生きる道でもあり、只見線を存続させる道でもあるだろう。

(長谷川盛雄)

中川町営住宅を視察 6世帯入居の集合住宅が完成

12月に完成した中川の町営住宅の視察を、1月17日に全議員で行いました。6世帯が入居できる集合住宅で、1階が駐車場、2階の各部屋に台所、風呂、トイレを備えています。平成26年1月から入居者の募集が行われ、2月から入居が始まります。隣にはかねやまホームの職員寮も完成し、若者定住へ向けた施設として期待されています。



居室は8畳のフローリング

ごあんない

次回の定例会は、3月7日ごろ開会の予定です。

一般質問は3月10日ごろとなります。

お気軽に傍聴においで下さい。

○役場1階の受付で「傍聴券」を受け取り
4階の議場においで下さい。

〔発行責任者〕

議長 長谷川盛雄

〔編集委員〕

委員長 奥高伸

副委員長 青柳靖美

委員 横田正敏

委員 馬場清次

委員 黒川廣志

次回、金山町議会だより

第185号は、4月下旬ごろ発行の予定です。